

はじめに

近年アジア諸国では急速な経済成長の一方で、国内の経済的・社会的格差の拡大がみられる。政策課題としても地域格差の解消や工業分散政策などがますます重視されてきている。しかし、実態はなかなかそのような政策が効果を発揮せず、大都市集中やその周辺地域へ経済力の集中が進むという状況がみられる。もちろん地域格差は工業発展のみにかかって生まれる現象ではなく、国によっては農業の発展が地域格差のありかたに影響を与えている場合もある。このような各国経済の特色ある地域構造を描くことが本研究の第1のねらいであった。そのような個別研究の対象として、本研究では中国、台湾、タイ、インドの4カ国・地域を選び、地域格差の現状とその要因について分析している。本書では、いずれの国についても導入部分として経済発展と地域格差の関係を地域政策とのかかわりの中でのみることを意識的にして、4カ国の経済発展のパターンと地域経済構造との関係の比較ができるようにした。

本書では、地域構造に関する統計的分析の手法や省、州、県などの地域統計の特性と概念について紹介、分析していることも特徴である。本研究は1989/90年度統計調査部の、「アジア諸国の地域構造の統計的分析」研究会(主査：野田容助、幹事：佐藤由利江)の成果である。本書の上記の狙いにそって、研究会の委員は、主査、幹事(統計調査部)の他には中国、台湾、タイ、インドの地域専門家から構成し、統計的手法と地域の知識との交流をはかろうとしたのである。1年の短期間で4カ国・地域を対象にした研究会であったが、地域専門家の委員の方々から温かい励ましと協力を得てここに本書が刊行できたことをあらためて深謝したい。本書がアジア諸国の地域経済構造のより良き理解に役立つことを願ってやまない。

1992年2月

野田 容助
佐藤由利江